

自分のデジタル力がわかる

第20回「全国スキル調査 2021」と

「DX意識と行動調査2021」

ご協力をお願い

特定非営利活動法人ITスキル研究フォーラム

Copyright©2021 IT Skill Research
Forum All Rights Reserved.

2021年6月



デジタルに関わる「全国スキル調査」と「DX 意識と行動調査」へのご協力をお願い

昨年「第19回全国スキル調査」では、多くのITエンジニアとビジネスパーソンの方々にご参加いただきました。ご協力ありがとうございました。調査結果は、私どものWebサイトや日経コンピュータ・日経クロステックなどに掲載されました。中でも、DX（デジタルトランスフォーメーション）推進において、経営方針の明確化には「パートナーシップ」が阻害要因となる一方、管理職層においては「パートナーシップ」が促進要因となることなど、人の行動特性がDXに及ぼす影響を示した内容は、各方面から大きな反響を呼びました。改めて感謝申し上げます。

さて今回もITエンジニアや情報システム部門担当者への「全国スキル調査」に加えて、広く一般企業のビジネスパーソンを対象とした「DX 意識と行動調査」を実施いたします。DXへの取り組み状況や取り組む上での障害などを診断形式で回答いただくとともに、DX推進組織における権限のあり方、既存ビジネスのデジタルによる進化や変革、トップメッセージと現場の意識の変化などについてのアンケート調査も併せて実施します。企業の文化や仕事に対する意識、働き方に対する考え方はデジタル時代に適応するようにどれだけ変わりつつあるのか——このことを経年で調査するのが目的です。

今回もこれまでと同様、回答を終えるとその場で診断結果が表示されますので、ご自身と自社の現状を把握していただくことができます。また大きな負担なく回答いただけるよう、アンケート項目数も絞り込んでいます。

「全国スキル調査」では毎回の調査と同じく、ご協力いただいたITエンジニアの皆様には自身のスキルを客観的に把握していただけます。また、今回の「DX 意識と行動調査」では、ITを活用するビジネスパーソンの方々には、コンピテンシーやDXに対する意識と行動の診断結果をその場で提示し、ご自身の意識や行動を全国平均とともに5段階の客観的な数値で把握していただくことができます。

日本企業のDXを促進するという観点から本調査は非常に重要であると考えております。ぜひご協力をお願いいたします。

特定非営利活動法人ITスキル研究フォーラム
理事長 田口 潤

- ◆ 2003年12月に日経BP社を中心に設立。2010年4月、NPO法人に改組。
- ◆ ミッション：ITエンジニアおよびIT利活用人材のスキル可視化を通じて、ITおよびデジタル技術の利活用推進によるあらゆる産業の発展に貢献する。
- ◆ 取り組み
 - ① 経産省やIPAをはじめIT利活用人材育成に取り組む機構・諸団体や企業と共同し、IT利活用人材育成に関わる諸問題を議論し、啓蒙活動に取り組む。
 - ② ITエンジニアとIT利活用人材のスキル調査を定期的実施し、分析情報などを経産省、IPAほか諸団体、ITおよびビジネス分野の雑誌、Web、メルマガなど多様なメディアを通じて、IT企業とIT利活用企業の人材育成や組織改革に役立つ情報を提供する。
 - ③ IT企業とIT利活用企業に対し人材のIT利活用度を定量的に把握する手段を提供し、経営戦略や人材戦略の立案ならびに実施を支援する。また、ITエンジニアとIT利活用人材に自律的なスキル向上を促す。



(※画面イメージは変更する場合があります)

【全国スキル調査の概要】

◆2002年より実施しているIT企業のエンジニア、情報システム部門のエンジニアを対象とする個人のスキルレベルを明らかにする全国規模での調査。

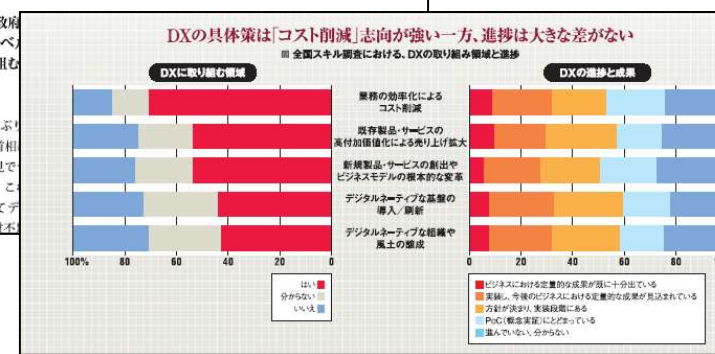
本年度はITエンジニア、情報システム部門担当者対象の「全国スキル調査」と、一般企業のビジネスパーソン対象の「DXに対する意識と行動調査」を実施。

◆日経BP社の日経コンピュータ、日経クロステックを始め、IT系媒体、IT関連団体、OSや資格試験ベンダーが告知協力して行う、国内唯一のスキル実態調査。

特集

スキルと年収に異変 「DXシフト」強まる

2020年は新型コロナ禍のなか、企業に加えて政府実装の担い手であるITエンジニアのスキルレベル「DXシフト」に応じた変化があり、同時にDXを阻む



日経コンピュータ2020年12月24日号から

- ◆主催：特定非営利活動法人 ITスキル研究フォーラム (iSRF)
- ◆調査期間：2021年6月14日（月）～8月15日（日）（予定）
- ◆調査実施方法：Webサイト上で、スキルとコンピテンシーおよびアンケートに回答。無記名、無料。

★第20回「全国スキル調査2021」

・調査対象：IT企業のエンジニア、企業の情報システム部門担当者

・調査内容：

【診断形式による調査項目】＊設問への回答完了後、即その場で診断結果を表示

①ヒューマンスキルを測る「コアコンピテンシースキル設問」（72問）

②ソフトウェア開発、プロマネ、情報セキュリティからIoT/AIにいたるまで14のロール（役割）における業務スキルによる診断。1回の診断で全てのロール（役割）に対するレベルを判定。仕事（タスク）の設問（106問）

③DXの実態と個人の意識と行動調査

「デジタルトランスフォーメーション（DX）」の自社の実態についての設問（12問）

「デジタルトランスフォーメーション（DX）」の個人の意識と行動に関する設問（12問）

【アンケート形式による調査項目】

DXの自社における進捗状況やDXを進める上での問題点などを問うアンケート（17問）

★「DX意識と行動調査2021」

・調査対象：一般企業のDX推進部門担当者・管理者、事業部門の事業企画推進担当者、組織や風土改革を担う担当者など

・調査内容：

【診断形式による調査項目】＊設問への回答完了後、即その場で診断結果を表示

①ヒューマンスキルを測る「コアコンピテンシースキル設問」（72問）

②DXの実態と個人の意識と行動調査

「デジタルトランスフォーメーション（DX）」の自社の実態についての設問（12問）

「デジタルトランスフォーメーション（DX）」の個人の意識と行動に関する設問（12問）

【アンケート形式による調査項目】

DXの自社における進捗状況やDXを進める上での問題点などを問うアンケート（17問）

◆上記、必須回答項目への診断後には、ITパスポート試験問題に手軽に挑戦できる「DS-iPass(仮称)」、自分のメンタルヘルス状態がわかる「ストレスチェック」、職場の環境がチェックできる「職場環境調査」、自分のパーソナリティの特徴やタイプを知ることができる「パーソナリティ診断」、文章力を診断する「文章チェック」を任意で受けることが可能。

◆第20回「全国スキル調査2021」が「DX意識と行動調査2021」を完了すると、以下の診断やチェックが無料で受診可能です。

★ ITリテラシーテスト【DS-iPass(仮称)】（30問）：DXではITのみならず幅広い知識が求められます。本テストでは、「ITパスポート試験」過去5年間の100問からランダムに30問を出題。ITテクノロジー、マネジメント、ストラテジーの各分野についての知識をチェックできます。

★ストレスチェック（82問）：自分のメンタルヘルス状態がわかる診断。厚生労働省が推奨する項目をカバーしています。

★職場環境調査（83問）：職場環境はやる気や満足度に影響します。職場の環境を客観的にチェックできます。

★パーソナリティ診断（73問）：自分のパーソナリティの特徴やタイプを知る診断。円滑な人間関係のために自分の特徴やタイプを知って、実生活に活かすことができます。

★文章チェック：100文字程度の文章を入力すると、読みやすさ、表現テクニックなどをコンピュータで自動解析。アドバイスを基に書き直すことでコツがつかめ、文章力がアップします。

参加方法

①特設サイトにアクセス



②エントリーシートに簡単なプロフィールを入力後、診断スタート

スキル診断

全ての診断を完了してください。

①コアコンピテンシー (所要時間:約10分) (完了日付:----/--/--)

[本調査] **コアコンピテンシー診断**

②専門スキル (所要時間:約15~30分) (完了日付:----/--/--)

[本調査] **スキル診断/DX意識診断**

全ての診断を完了すると、スキル診断結果を見ることができます。

診断結果

診断結果を見る

住所、氏名等の個人情報入力なし (任意でメールアドレスあり)

③参加者はその場で結果を閲覧

No.	主	業務(役割)	分類	業務スキルレベル				結果	専門スキル 開示率	
				数	Lv.0	Lv.1	Lv.2			Lv.3
1		[DX] ISシステムアシスト	事務・企画	3.1				★	高	100%
2		[DX] システムアーキテクト	設計・開発	2.2				★	高	100%
3		[DX] プロジェクトマネージャ	設計・開発	2.3				★	高	100%
4		[DX] ソフトウェア開発エンジニアリスト	設計・開発							
5		[DX] エンジニアリング								
6		[DX] 品質保証マニピュレーター								
7		[DX] 経営スペシャリスト								
8		[DX] ネットワークスペシャリスト								

自分自身の現状

レベル	調査区分
Lv.4	DXにおいて個人に求められる意識と行動が十分に実現できている段階。DX推進部門や各事業部門の要員のDX推進リーダー、DXについての各事業部門を支援していく役割、自身の存在が意識を醸成し、よわいつつ社内の意識を醸成する役割が期待される。
Lv.3	DXにおいて個人に求められる意識と行動がある程度実現できている段階。DX推進部門や各事業部門のメンバーであるとともに、DX推進部門と各事業部門との橋渡し役が期待される。
Lv.2	DXにおいて個人に求められる意識と行動について、部分的に実現できているものも若干ながら存在。社内で既にDX推進業務に携わるリーダーやメンバーに学んでいくなかで、さらに意識を高め行動していくことが期待される。
Lv.1	DXについての意識は芽生えつつ、ほとんど行動に繋がっていない段階。DXに関する情報を社内から収集し、DXに取り組む必要や意義を知り、少しずつ意識を高めていくことが期待される。
Lv.0	このレベルに定義されている人材はほとんどいない。

業務要件の定義

質問は全部で 4問 目です。
【戦略・企画/評価】
L【個別案件のシステム企画立案】
L【業務要件の定義】
に関する内容にお答えください。

利用名義 (顧客や自社など) の立場として、個別案件のシステムに要求する業務要件を定義する。

<総説>
▶要件を考慮した業務フローをプロセス単位で作成し、ユーザの具体的な要求事項を可視化する。
▶業務フローに基づき要求事項の評価を行い対応範囲を明らかにする。また、対応範囲以外の業務との関連性を取りまとめる。
▶対応範囲の業務の入力条件、処理条件、出力条件の業務ルールを把握レベルで作成する。
▶対応範囲の業務の例外処理を洗い出し、明らかにする。

選択式の質問に回答するだけ

No. 6

経験をもとに回答を指導できる									
経験がないか知識はある									
サポートを求められればできる									
独力で行うことができる									

システム要件の定義

質問は全部で 4問 目です。
【戦略・企画/評価】
L【個別案件のシステム企画立案】
L【システム要件の定義】
に関する内容にお答えください。

利用名義 (顧客や自社など) の立場として、個別案件のシステムに要求するシステム要件を定義する。

<総説>
▶システム化の対象となる人の作業およびシステム機能の実現範囲を定義する。
▶他システムとの情報連携等のインタフェースを定義する。
▶ユーザがシステムをどのような環境 (システム、人の動き) で運用・保守するのかを確認し、運用要件を把握レベルで作成する。
▶ユーザのニーズに適合した性能、可用性、セキュリティ/プライバシー等に関する要件を把握レベルで作成する。

No. 7

経験がないか知識はある									
サポートを求められればできる									
独力で行うことができる									

診断形式による調査項目回答後の診断結果例

調査区分設定

最新更新日付：2020/05/29

No.	主	調査区分	内容	DX意識と行動レベル					結果表示	DX意識と行動回新率	
				値	Lv.0	Lv.1	Lv.2	Lv.3			Lv.4
1	個人	個人の意識と行動	自分自身の現状	3.2				★		表示	100%
2	企業	企業の文化風土	個人から見た企業の現状	2.4			★			表示	100%

※「★」は調査区分です。 ※「★」はあなたのレベル位置です。 ：空欄されている領域

調査区分：1 個人の意識と行動 / 自分自身の現状

診断完了日付：20/05/29

レベル概要
コアコンピテンシー評価
DX意識と行動評価
回答情報

レベル概要詳細

スキル名称	レベル	Lv.0	Lv.1	Lv.2	Lv.3	Lv.4	Lv.5	Lv.6	Lv.7
コアコンピテンシーレベル	2.9			★					
DX意識と行動レベル	3.2				★				

※「★」はあなたのレベル位置です。

タスク

□…不足タスク(ギャップ表示より値が低い箇所)

あなたのタスクランク↓

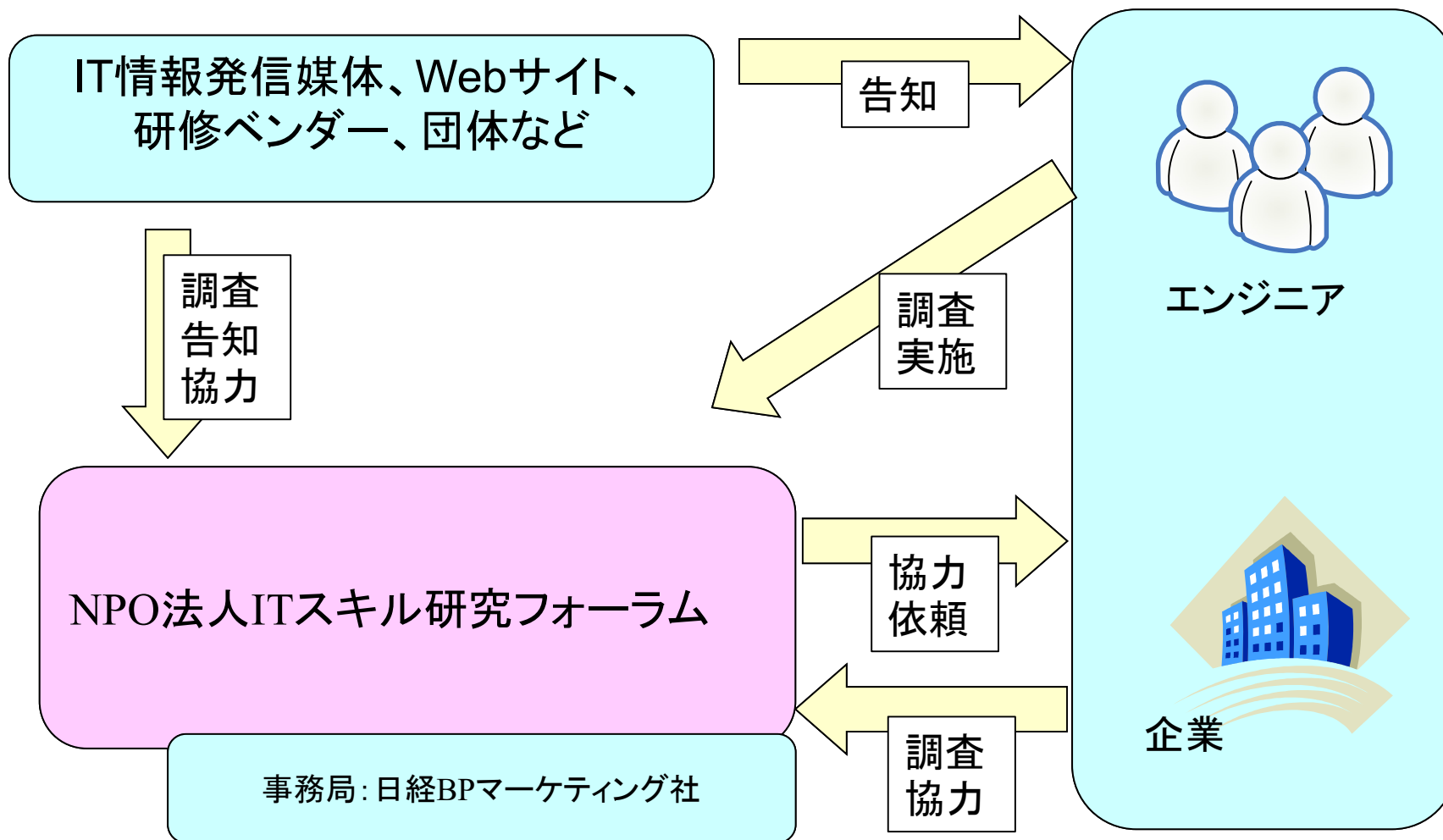
第1階層(大分類)	第2階層(中分類)	第3階層(小分類)	値	値	R0	R1	R2	R3	R4
DX意識と行動	個人の意識と行動	会社方針の理解と行動(自分自身の現状)	2.5	3.0	→	→	→		
		知識と情報収集(自分自身の現状)	3.0	3.0	→	→	→	→	
		組織と行動(自分自身の現状)	2.5	3.0	→	→	→		
		課題設定と施策提案(自分自身の現状)	2.2	3.0	→	→	→		
		スキルの見える化と学び(自分自身の現状)	3.8	3.0	→	→	→	→	
		IT利活用の推進(自分自身の現状)	3.0	3.0	→	→	→	→	

【必要タスクとのギャップ表示】
あなたのタスクランク(→)と必要タスクランク(→)とのギャップ表示 (■□□)

↓必要なタスクランク

あなたのスキル	全国平均
イノベティブ・アクション	革新性と創造性をもって物事にあたり、周囲を巻き込みながら変革を実現する
ロジカルアプローチ	現状を整理・把握し、課題を抽出して解決に繋げる
リスクマネジメント	目標達成に向け計画を立て、不測の事態にも対応しながら、着実に実行する
パートナーシップ	人との対話を通じて相手を理解し、要望に応えながら人脉を形成する
セルフコントロール	本質を見失わず、冷静さと学習する謙虚さをもって自己を律する
チームデベロップメント	メンバーを支援・指導し、前向きに動機づけ、チーム/組織力を向上する

- 枠組み



第20回「全国スキル調査2021」と「DX意識と行動調査2021」の調査内容については下記をご覧ください。

<http://www.isrf.jp/home/event/chousa/>

★全国スキル調査2021 特設サイト

<https://www.isrf.jp/chousa/2021/>

★ DX意識と行動調査2021 特設サイト

<https://www.isrf.jp/dxliteracy/2021/>

各特設サイトのオープン期間は、6月14日(月) から8月15日(日) までです。

◆お問い合わせは下記まで

特定非営利活動法人 ITスキル研究フォーラム (iSRF) 事務局

日経BPマーケティング

Eメール : isrf@nikkeibp.co.jp

〒105-8308 港区虎ノ門4-3-12 Webサイト <http://www.isrf.jp>